

平成 30 年度

川崎市立中学校 学習診断テスト

社会科

誤答分析と学習指導上の考察

川崎市教育委員会
川崎市立中学校長会
社会科調査委員会

社 会

I 作成方針と構成

1. 作問にあたって

- (1) 学習指導要領に示されている社会科の目標および内容の、基礎的・基本的な事項について、いかに生徒に定着しているかを、観点別に調査・診断することを意図して問題を作成した。
- (2) 作問は、本市使用の教科書を中心に行った。
- (3) 出題の傾向
- ◎第1学年は、平成24年度に告示された学習指導要領に示されているもののうち、本年度4月から10月までの学習内容について出題した。
 - ◎第2学年は、平成24年度に告示された学習指導要領に示されているもののうち、前年度11月から本年度10月までの学習内容について出題した。
 - ◎第3学年は、平成24年度に告示された学習指導要領に示されているもののうち、前年度11月から本年度10月までの学習内容について出題した。

なお、出題範囲の決定にあたり、各学校より提出された学習指導に関するアンケート調査の集計結果を参考にした

<誤答分析の表記について>

「考察」について、80%以上を「十分」、60～79%を「一応」、35～59%を「やや不十分」、34%以下を「不十分」の言葉を用いて表記した。また、各問題の観点・内容にあわせた文章を作成し、特別な間違いについても記述した

問題用紙 写真・地図の所載・提供(掲載順)

十日町市博物館／唐招提寺／東大寺／東京大学史料編纂所／正倉院宝物殿／中尊寺／公益財団法人美術院／dpa 時事通信フォト／AFP=時事／Tyler Olson／時事通信フォト／EPA=時事／ルーブル美術館／神戸市立博物館／東京国立博物館／米沢市上杉博物館／建仁寺／Grandlarsonny images／朝日新聞／津田塾大学津田梅子資料室／原敬記念館／Google ストリートビュー

2. 出題のねらい

	1 年	2 年	3 年
問 1	<p>●人類の出現と文明のおこり</p> <p>・人類の出現と文明のおこりについて、資料を活用し、正しく理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●中世の日本と社会の変化</p> <p>・鎌倉時代後期から室町時代の政治的・文化的・経済的变化やできごとについて正しく判断し、適切に資料を選択し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●日本国憲法と基本的人権</p> <p>・人権を尊重する日本国憲法に関して、憲法の三つの基本原則や、さまざまな基本的人権、新しい人権、国民の義務などについて資料を活用し、正しく理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 2	<p>●古代の日本</p> <p>・大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことについて、資料を活用し、適切に判断し、正しく理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●中世の世界のできごと</p> <p>・中世の世界のできごとについて正しく理解しているかを問う。また、中世の世界と日本の歴史の関連について正しく判断できるかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●私たちの暮らしと民主政治</p> <p>・私たちの暮らしと民主政治に関して、法律が成立するまで、現在の衆議院議員選挙制度、内閣の仕事などについて資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 3	<p>●武家政治の成立とその広がり</p> <p>・武家政権の成立とその後の武家社会の展開について、資料を活用し、正しく理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●近世の政治と社会</p> <p>・信長や秀吉の政治・外交、江戸幕府成立から幕府の改革までの大まかな流れを理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●司法権の独立と裁判</p> <p>・司法権の独立と裁判に関して、民事裁判、司法制度の改革、三権分立の仕組みなどについて資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 4	<p>●原始から古代までの人々の生活</p> <p>・原始から古代までの人々の生活がどのように変化しているのか、また各時代の文化について、資料を活用し、正しく理解し、適切に判断できているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●近代の日本と世界</p> <p>・欧米諸国で近代化が進み、その影響が日本にも及んだことを理解しているかをみることをねらいとしている。また、開国から江戸幕府滅亡までの大まかな流れを理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●明治時代の日本</p> <p>・明治時代の日本の政治・国際情勢・産業について、正しく理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 5	<p>●世界の地域構成</p> <p>・世界の地域構成に関して、緯度と経度、大洋と海洋の分布、主な国々の名称と位置などについて、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●北アメリカ州と南アメリカ州</p> <p>・北アメリカ州と南アメリカ州の地域的特色について、自然環境や産業の視点で資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。また、時差の計算について、正しく理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●第一次世界大戦の背景と影響</p> <p>・第一次世界大戦の背景とその影響やそのころの日本の政治・文化について、正しく判断し、適切に考察し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 6	<p>●世界各地の人々の生活と環境</p> <p>・世界各地の人々の生活と環境に関して、世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●オセアニア州の地域的特色</p> <p>・オセアニア州の地域的特色について、自然環境や産業の視点で資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●第二次世界大戦までの国際関係</p> <p>・第二次世界大戦までの国際関係や日本でのできごとについて、正しく理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 7	<p>●アジア州に暮らす人々</p> <p>・世界の諸地域に関して、アジア州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、地域的特色について、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●日本の姿と地形</p> <p>・日本の姿と地形について、略地図と地形図を読み取り、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●第二次世界大戦後の日本</p> <p>・第二次世界大戦後の日本のような国際社会について、正しく判断し、適切に考察し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 8	<p>●ヨーロッパ州に暮らす人々</p> <p>・世界の諸地域に関して、ヨーロッパ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、地域的特色について、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●世界と比べた日本の地域的特色</p> <p>・世界と比べた日本の地域的特色について、資料を読み取り、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●中部地方の地域的特色</p> <p>・中部地方に関して、地域でさかんな農業や工業などの産業について資料を活用し、正しく判断しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 9	<p>●アフリカ州に暮らす人々</p> <p>・世界の諸地域に関して、アフリカ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、地域的特色について、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●九州地方と北海道地方の地域的特色</p> <p>・九州地方と北海道地方の地域的特色について、自然環境と歴史的背景の視点で資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●中国・四国地方の地域的特色</p> <p>・中国・四国地方に関して、地域の農業の特色や雨温図の特徴を読み取り、交通網の整備による他地域との結びつきの変化について、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 10			<p>●地形図を正しく読み取る</p> <p>・地形図に関して、地図記号、方位、縮尺、地域的特色などについて、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>

Ⅱ 第1学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【社会 第1学年】

問題番号		趣旨		問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率	
大問	小問	知・技	思・判・表					
1	(ア)	○		◎	人類の出現と文明のおこり	人類の出現について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	33	0
	(イ)	○		◎		エジプト文明の特色について、正しく理解しているかを問う。	82	2
	(ウ)	○	○	◎		メソポタミア文明がおこった場所について、正しく判断し、資料を適切に選択しているかを問う。	59	1
	(エ)	○		◎		孔子と儒教の教えについて、正しく理解しているかを問う。	49	3
	(オ)	○	○	◎		秦の始皇帝について、正しく理解しているかを問う。	60	0
2	(ア)	○		◎	古代の日本	大仙古墳の位置について、資料から正しく選択しているかを問う。	72	1
	(イ)	○		◎		聖徳太子の政治について、正しく理解しているかを問う。	86	1
	(ウ)		○	◎		大化の改新以前のできごとについて、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	60	0
	(エ)	○		◎		鑑真について、資料を活用し、正しく理解しているかを問う。	94	0
	(オ)	○	○	◎		藤原道長について、正しく判断し、資料を読み取り、適切に選択しているかを問う。	73	0
	(カ)		○	◎		古代の土地制度の流れについて、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	41	1
3	(ア)	○		◎	武家政治の成立とその広がり	院政について、正しく理解しているかを問う。	28	22
	(イ)	○		◎		平清盛が整備した港について、資料から正しく選択しているかを問う。	49	2
	(ウ)	○		◎		封建制度について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	49	0
	(エ)	○		◎		後鳥羽上皇について、正しく理解しているかを問う。	55	0
	(オ)	○		◎		北条氏の政治について、正しく理解しているかを問う。	59	1
4	(ア)		○	◎	原始から古代までの人々の生活 古代・中世の文化	弥生時代の生活の特徴について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	32	1
	(イ)		○	◎		奈良時代の農民に逃亡者が多かった理由について、資料を読み取り、正しく表現しているかを問う。	35	6
	(ウ)	○		◎		東大寺について、資料を活用し、正しく理解しているかを問う。	79	0
	(エ)	○		◎		平等院鳳凰堂について、資料を適切に選択しているかを問う。	45	0
	(オ)	○		◎		鎌倉時代の特色について、正しく理解しているかを問う。	32	0
	(カ)		○	◎		鎌倉時代の文化について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	34	3
5	(ア)	○		◎	世界の地域構成	陸地と海洋について、地球上の位置を資料から読み取り、正しく理解しているかを問う。	75	0
	(イ)	○		◎		世界のおもな国の位置と地域を資料から読み取り、正しく理解しているかを問う。	85	0
	(ウ)	○		◎		内陸国について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	89	1
	(エ)	○	○	◎		緯度・経度について、正しく判断し、資料を適切に読み取る力を問う。	31	0
	(オ)		○	◎		世界のおもな都市の位置について、資料から読み取り、正しく判断しているかを問う。	65	1
	(カ)	○		◎		正距方位図法について、正しく理解し、適切に読み取る力を問う。	72	3
6	(ア)	○	○	◎	世界各地の人々の生活と環境	標高の高い地域について、正しく判断し、資料を適切に選択しているかを問う。	37	13
	(イ)	○		◎		スコールについて、正しく理解しているかを問う。	51	14
	(ウ)	○	○	◎		暑い地域に住む人々の伝統的な住居について、正しく判断し、資料を適切に選択できるかを問う。	73	0
	(エ)	○		◎		イスラム教について、正しく理解しているかを問う。	71	0
	(オ)		○	◎		乾燥した地域について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	82	1
	(カ)	○	○	◎		寒い地域の伝統的な衣服について、正しく理解しているかを問う。	67	0
	(キ)		○	◎		世界の食文化について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	64	2
7	(ア)	○		◎	世界の諸地域 (アジア州)	ヒマラヤ山脈について、正しく理解しているかを問う。	66	0
	(イ)		○	◎		アジア州の面積と人口について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	69	0
	(ウ)		○	◎		アジア州の農業について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	76	0
	(エ)	○		◎		中国の工業製品について、正しく理解しているかを問う。	78	0
	(オ)		○	◎		東南アジアの日本の企業数とタイの輸出品について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	85	1
	(カ)	○		◎		カースト制度について、正しく理解しているかを問う。	79	1
	(キ)	○		◎		原油の生産国と輸入について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	87	1
8	(ア)	○		◎	世界の諸地域 (ヨーロッパ州)	ヨーロッパ州の自然環境について、正しく理解しているかを問う。	54	2
	(イ)		○	◎		EU各国の航空機の生産過程について、資料を適切に読み取り、正しく表現しているかを問う。	52	14
	(ウ)	○		◎		ヨーロッパの農業について、資料を適切に読み取る力を問う。	85	2
	(エ)	○	○	◎		EUについて、正しく理解しているかを問う。	35	1
	(オ)		○	◎		ヨーロッパの言語と宗派の分布について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	83	3
9	(ア)	○		◎	世界の諸地域 (アフリカ州)	アフリカ州の自然環境について、正しく理解し、資料を適切に選択しているかを問う。	67	3
	(イ)	○		◎		アフリカ州の主な使用言語とヨーロッパとの関わりについて、資料を適切に読み取る力を問う。	72	5
	(ウ)		○	◎		アフリカ諸国の輸出品について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	65	7

◎…主たる観点

平均正答率 (%)		
知識・技能		63.0
思考・判断・表現		60.0

2. 主な誤答と分析【社会 第1学年】

(1) 歴史的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手立て	
1	ア	4	33	0	3 1	44 20	<p>人類の出現と文明のおこりについて、(イ)のエジプト文明の特色についての理解が十分できてい。(ウ)の文明の場所について考え、資料を読み取ることが正答率59%とやや不十分であった。</p> <p>(ア)の人類の出現について、資料を読み取り、理解しているかを問う問題では、誤答率が正答率を上回るなど、理解が不十分である。日々の授業では、資料の活用などを通して、生活技術の発達について理解を深める必要がある。</p>
	イ	2	82	2	3 1	6 5	
	ウ	2	59	1	3 1	23 9	
	エ	1	49	3	4 2	22 17	
	オ	3	60	0	1 2	30 5	
2	ア	3	72	1	2 1	14 7	<p>(イ)の聖徳太子の政治や(エ)の鑑真について、小学校での既習事項でもあるため、その理解が十分できている。しかし、(カ)の古代の土地制度の流れについて、知識をもとに正しい判断をする問題がやや不十分であった。</p> <p>並び替えの問題に苦手意識を持っている生徒が多いため、日々の授業の中で、各時代の特色を他の時代と比較したり、関連付けたりすることで歴史の大きな流れを理解させることが重要である。</p>
	イ	2	86	1	1 4	7 6	
	ウ	1	60	0	3 4	15 15	
	エ	2	94	0	1 3	5 1	
	オ	3	73	0	1 4	11 10	
	カ	2	41	1	1 4	31 16	
3	ア	院政	28	22	摂関政治 武家政治	22 7	<p>全体的に理解がやや不十分な問題が多い結果となった。特に(ア)の院政についての理解が28%と不十分であった。摂関政治と解答する生徒が22%と多いため、各時代の政治について人物などの違いを明らかにしながら授業を行う必要がある。</p> <p>(エ)の後鳥羽上皇や北条氏の政治について、理解しているかを問う問題では半数以上が解答できているが、(イ)の神戸の港について、資料を正しく読みとることや、(ウ)の御恩と奉公の関係について、資料を読み取り、理解することが、どちらも49%とやや不十分である。誤答も多いため、日々の授業の中で、資料の読み取りや複数の資料を比較・関連させる活動を通して、確実に理解を深めていくことが重要である。</p>
	イ	2	49	2	4 3	38 8	
	ウ	1	49	0	3 2	31 14	
	エ	4	55	0	1 2 3	19 17 17	
	オ	1	59	1	0	14	
4	ア	4	32	1	2 3	45 14	<p>(ウ)の東大寺について、資料を読み取り、理解しているかの問題の正答率が79%と一応できている。しかし、(ア)の弥生時代の生活について、知識をもとに正しい判断をする問題や、(オ)の鎌倉時代の特色についての理解が正答率32%と不十分であった。また、(イ)の論述問題では、無答率が6%と少ないが、複数の資料を読み取り、自分の言葉で表現する力が不十分であった。文化については、全体的に正答率が低い結果となった。授業では、語句の暗記になりがちであるが、各時代の特色や時代背景、他の時代との比較を通して、理解の定着を高めていくことが重要である。</p>
	イ	農民の税負担が重く、農民の生活が苦しかった	35	6	農民は負担が重く、苦しかった。		
	ウ	3	79	0	2 1	10 9	
	エ	2	45	0	4 1	29 18	
	オ	3	32	0	1 4	29 25	
	カ	4	34	3	2 3	40 20	

(2) 地理的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
5	(ア)	4	75	0	1	16	世界の地域構成についての問題は、(イ)、(ウ)について十分な理解がみられた。しかし、(エ)の緯度・経度を読み取る問題では、正答率が31%と不十分であった。緯度と経度の意味を理解するだけでなく、赤道、本初子午線と日付変更線の位置を地図帳や地球儀を使って内容の理解に努めることが大切である。また、各諸地域学習の中で、緯度と経度を読み取る時間を設定し、繰り返し学習することが必要である。
					2	6	
	(イ)	3	85	0	4	8	
					2	6	
	(ウ)	2	89	1	3	6	
					1・4	2	
	(エ)	3	31	0	4	46	
					1	12	
	(オ)	1	65	1	2	22	
					3・4	6	
	(カ)	2	72	3	3	12	
					1	11	
6	(ア)	4	37	13	2	28	世界各地の人々の生活と環境についての問題は、(オ)について十分な理解がみられた。世界各地の地形や気候との関わりから雨温図を正しく読み取っていることがわかった。しかし、(ア)のアルパカの様子がみられる地域を選択する問題では、正答率が37%とやや不十分である。標高が高い地域において、アルパカの毛を衣服にしたり、食用としても利用されていることからその関係性を理解させたい。また、(イ)のスコールを答えさせる問題では、正答率が51%とやや不十分である。説明文の中に風という言葉が入っていたこともあり、モンスーンやハリケーンなどの誤答が多かった。語句の意味を確認するだけでなく、それぞれの特徴を掴むことが大切である。
					3	16	
	(イ)	スコール	51	14	モンスーン	10	
					ハリケーン	3	
	(ウ)	1	73	0	3	15	
					4	10	
	(エ)	4	71	0	3	14	
				2	13		
	(オ)	2	82	1	3	7	
					1	6	
	(カ)	3	67	0	1	23	
					4	8	
	(キ)	2	64	2	3	14	
					4	12	
7	(ア)	1	66	0	3	19	世界の諸地域アジア州についての問題は、全体的に一応の理解がみられた。(オ)、(キ)の問題については、資料を的確に読み取り、正しい語句を選択していたので、十分な理解がみられた。しかし、(ア)のヒマラヤ山脈を選択する問題では、19%がアルプス山脈を選択していたので、アジア州の地形の特徴を文章で覚えるだけでなく、教科書や地図帳と照らし合わせることによって、位置を確認させたい。
					4	9	
	(イ)	3	69	0	1	21	
					4	6	
	(ウ)	3	76	0	2	14	
					1	7	
	(エ)	2	78	0	4	10	
				3	7		
	(オ)	4	85	1	1	6	
					2・3	4	
	(カ)	1	79	1	4	8	
					3	7	
	(キ)	4	87	1	2	7	
					3	5	
8	(ア)	1	54	2	4	20	世界の諸地域ヨーロッパ州についての問題は、(ア)、(イ)、(エ)については、やや不十分である。(イ)については、指定された語句を使用しているが、フランスで完成していることをふれていなかった。また、部品を分担することと、フランスで組み立てていることを文章でうまくつなげることができていなかった。EUの工業の特徴や加盟国同士の関わりなどを資料を通して理解させたい。(エ)については、EUに加盟することの利点をイラストや資料を交えながら確認させることが大切である。
					2	13	
	(イ)	(EU各国は)航空機の部品を分担して生産し、フランスで組み立て作業を行っている。	52	14	部品を分担して生産して、組み立て作業を行っている。		
	(ウ)	2	85	2	3	8	
					1	3	
	(エ)	4	35	1	1	31	
					3	18	
	(オ)	3	83	3	1	6	
					2	5	
9	(ア)	1	67	3	3	12	世界の諸地域アフリカ州についての問題は、全体的に一応の理解がみられた。しかし、(ウ)については、モノカルチャー経済の意味が理解できていない傾向があるので、輸出品をグラフで確認し、その課題を考えさせることが大切である。
					2・4	9	
	(イ)	4	72	5	3	10	
					1	7	
	(ウ)	2	65	7	3	14	
					1	10	

III 第2学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【社会 第2学年】

問題番号		趣旨		技	知・理	問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
大問	小問	知・技	思・判・表						
1	(ア)	○	○	◎	◎	中世の日本の社会の変化	元寇から鎌倉時代滅亡までの流れについて、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	59	1
	(イ)	○	○	◎	◎		建武の新政の内容について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	47	1
	(ウ)	○	○	◎	◎		室町幕府のしきみについて、資料を適切に読み取り、選択する力を問う。	37	1
	(エ)	○	○	◎	◎		室町時代の周辺諸国のようすについて、正しく理解しているかを問う。	19	1
	(オ)	○	○	◎	◎		室町時代の産業の発達について、正しく理解しているかを問う。	64	1
	(カ)	○	○	◎	◎		分国法について、資料を適切に読み取り、選択する力を問う。	24	1
	(キ)	○	○	◎	◎		室町文化について、資料を適切に読み取り、選択する力を問う。	39	1
2	(ア)	○	○	◎	◎	中世の世界のできごと	十字軍について、正しく理解しているかを問う。	44	25
	(イ)	○	◎	◎	◎		ルネサンスについて正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	53	1
	(ウ)	○	○	◎	◎		大航海時代について、正しく理解しているかを問う。	66	1
	(エ)	○	○	◎	◎		南蛮貿易について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	58	1
3	(ア)	○	○	◎	◎	近世の政治と社会	織田信長について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	81	1
	(イ)	○	○	◎	◎		幕藩体制の内容について、正しく理解しているかを問う。	74	1
	(ウ)	○	○	◎	◎		徳川綱吉の政治について、正しく理解しているかを問う。	69	1
	(エ)	○	○	◎	◎		田沼意次の政治について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	56	1
	(オ)	○	○	◎	◎		化政文化について、資料を適切に読み取り、選択する力を問う。	56	1
	(カ)	○	◎	◎	◎		江戸幕府の外交政策について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	60	1
4	(ア)	○	○	◎	◎	近代の日本と世界	イギリスの市民革命について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	41	1
	(イ)	○	◎	◎	◎		産業革命期の社会問題について、資料を読み取り、正しく表現しているかを問う。	17	15
	(ウ)	○	○	◎	◎		外国船打払令の内容について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	73	1
	(エ)	○	○	◎	◎		日米和親条約の内容について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	62	1
	(オ)	○	◎	◎	◎		幕末の歴史の流れを正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	43	1
5	(ア)	○	○	◎	◎	世界の諸地域 (北アメリカ州・南アメリカ州)	時差の計算について、正しく理解し、計算できるかを問う。	52	2
	(イ)	○	◎	◎	◎		北アメリカ州の移民と人種・民族構成について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	37	1
	(ウ)	○	◎	◎	◎		北アメリカ州の農業の特色について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	78	1
	(エ)	○	○	◎	◎		北アメリカ州の貿易の特色について、資料を適切に読み取る力を問う。	86	1
	(オ)	○	◎	◎	◎		南アメリカ州の鉱産資源について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	32	1
	(カ)	○	○	◎	◎		南アメリカ州の環境問題について、正しく理解しているかを問う。	90	1
	(キ)	○	◎	◎	◎		北アメリカ州と南アメリカ州の気候について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	21	1
6	(ア)	○	○	◎	◎	世界の諸地域 (オセアニア州)	オセアニア州の気候と人口の関係について、資料を適切に読み取る力を問う。	78	1
	(イ)	○	○	◎	◎		オーストラリアの貿易相手国の変化について、資料を適切に読み取る力を問う。	70	2
	(ウ)	○	◎	◎	◎		オセアニア州の位置と農業の関係について、資料を読み取り、正しく表現しているかを問う。	38	22
7	(ア)	○	○	◎	◎	日本の姿と地形	日本の領土について、正しく理解しているかを問う。	74	1
	(イ)	○	○	◎	◎		排他的経済水域について、正しく理解しているかを問う。	79	1
	(ウ)	○	◎	◎	◎		都道府県や地方の位置について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	82	1
	(エ)	○	◎	◎	◎		方位・等高線・縮尺について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	49	2
	(オ)	○	◎	◎	◎		地図記号について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	81	2
8	(ア)	○	○	◎	◎	世界と比べた日本の地域的特色	日本の地形について、資料を読み取り、適切に選択できるかを問う。	73	2
	(イ)	○	○	◎	◎		日本の気象災害について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	43	2
	(ウ)	○	◎	◎	◎		日本の人口の変化について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	84	2
	(エ)	○	○	◎	◎		世界の電力構成について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	41	2
	(オ)	○	○	◎	◎		日本の産業の特色について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	62	3
	(カ)	○	○	◎	◎		日本の輸送形態の特色について、資料を適切に読み取る力を問う。	68	3
9	(ア)	○	○	◎	◎	日本の諸地域 (九州地方と北海道地方)	九州地方の農業の工夫について、正しく理解しているかを問う。	60	19
	(イ)	○	◎	◎	◎		九州地方の自然について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	56	3
	(ウ)	○	○	◎	◎		九州地方の工業について、資料から適切に選択できるかを問う。	72	4
	(エ)	○	◎	◎	◎		九州地方を訪れる外国人観光客について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	71	4
	(オ)	○	◎	◎	◎		北海道の雨温図について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	61	5
	(カ)	○	○	◎	◎		北海道地方の農業の特色について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	67	5
	(キ)	○	◎	◎	◎		北海道地方の漁業について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	71	6

◎…主たる観点

平均正答率 (%)		
知識・技能		60.1
思考・判断・表現		55.0

2. 主な誤答と分析【社会 第2学年】

(1) 歴史的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	(ア)	3	59	1	2	25	「中世の日本と社会の変化」についての問題は、全体的に正答率が40%程度とやや不十分であった。(エ)の室町時代の周辺諸国のようすを問う問題では正答率が19%と理解が不十分であった。武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接なかわりが見られたことを理解させたい。 また、幕府のしくみを資料から選ぶ(ウ)や分国法を資料から選ぶ(カ)の問題の正答率も不十分であった。教科書や資料集に載っている資料を用いて、授業の中で資料を読み取る力をつけさせたい。
	(イ)	4	47	1	1	26	
	(ウ)	2	37	1	2	19	
	(エ)	3	19	1	1	33	
	(オ)	2	64	1	3	20	
	(カ)	1	24	1	4	29	
	(キ)	4	39	1	2	29	
2	(ア)	十字軍	44	25	遺唐使		「中世の世界のできごと」については、ヨーロッパの国々が十字軍でイスラム勢力と対峙したことにより、海運が発達し、大航海時代を迎えたことを理解させたい。また、宗教改革によるキリスト教世界の動きに伴って、鉄砲やキリスト教が伝来し、南蛮貿易がさかんになり、それが日本社会に影響を及ぼしたことを理解させたい。
	(イ)	1	53	1	3	18	
	(ウ)	4	66	1	2	15	
	(エ)	1	58	1	3	11	
3	(ア)	2	81	1	3	8	「近世の政治と世界」についての問題では、(ア)のについては十分な理解が見られた。しかし、(エ)の田沼意次の改革を問う問題の正答率が56%とやや不十分であった。江戸時代後期の諸改革については、財政の悪化や、改革の結果に着目させたい。 また、化政文化の作品を問う(オ)についても正答率56%とやや不十分であった。文化史の授業においては、作品の写真を活用するなどして、生徒の興味関心を引き出すようにしたい。
	(イ)	3	74	1	4	7	
	(ウ)	4	69	1	1	9	
	(エ)	3	56	1	2	8	
	(オ)	1	56	1	1	14	
	(カ)	2	60	1	3	8	
4	(ア)	4	41	1	4	20	「近代の日本と世界」についての問題は、(オ)の幕末の歴史の流れを問う問題については、正答率43%とやや不十分であった。並び替えの問題に苦手意識を持っている生徒が多い。歴史の流れを大きくとらえる学習課題を設定し、その解決に向けて学習を進めることを通して、欧米諸国が近代社会を成立させ、アジアへ進出していったことを理解させる必要がある。
	(イ)	子どもの労働時間が長く、労働環境も悪かった。	17	15	子どもの労働時間が長く厳しい生活をしていた。		
	(ウ)	3	73	1	1	13	
	(エ)	1	62	1	2	7	
	(オ)	2	43	1	2	15	

(2) 地理的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
5	(ア)	1	52	2	2 3	19 14	北アメリカ州の貿易の特色や南アメリカ州の環境問題に関する問題の正答率は十分にできていた。(ア)の時差の計算について、正しく理解し、計算できるかを問う問題については、やや不十分であった。北アメリカ州の移民と人種・民族構成を問う問題や、南アメリカ州の鉱産資源、南アメリカ州の気候を問う問題についての問題の正答率は不十分であった。特に気候を問う問題は、南アメリカ州の温帯気候と高山気候を誤解している傾向があった。 世界の諸地域を学習するにあたっては、主要都市の雨温図を使って、地域の位置や自然環境を理解させる必要がある。また多民族国家であるアメリカ合衆国の人種・民族構成についてもアメリカの歴史的背景を取り上げたりしながら授業の中で、理解させていきたい。南アメリカ州の鉱産資源については、各国の輸出品のグラフと関連付けながら理解させたい。
	(イ)	2	37	1	1 4	32 17	
	(ウ)	3	78	1	4 1	14 4	
	(エ)	2	86	1	3 1	6 4	
	(オ)	3	32	1	4 2	33 17	
	(カ)	4	90	1	2 3	3 3	
	(キ)	4	21	1	3 2	33 24	
6	(ア)	3	78	1	2 1	10 6	オセアニア州の気候と人口の関係や、オーストラリアの貿易相手国の変化について、資料を正しく読み取ることは一応できていた。 (ウ)のオーストラリアの位置と農業の関係については、資料をもとにした正しい判断がやや不十分であった。資料1からオーストラリアは南半球にあることは理解出来ているが、南半球は日本と季節が逆であることの読み取りは難しかったようである。また無答も多かった。改善への手立てとしては、地球儀や雨温図を使って、南半球の気候の理解をするとともに、北半球と季節が逆であることを利用した農業や輸出品などにも注目させて理解させたい。
	(イ)	2	70	2	3 1	10 10	
	(ウ)	オーストラリアは、北半球が小麦を収穫していない時期に、収穫できること。	38	22	オーストラリアは南半球に位置しているため、冬の時期に収穫できる		
7	(ア)	1	74	1	3 4	12 7	日本の姿と地形については、全体的に一応できていた。特に都道府県や地方の位置については、資料をもとにした正しい判断が十分にできていた。 (エ)について、地形図を読み取る問題は、特に等高線と縮尺について、資料をもとにした正しい判断がやや不十分であった。 地形図の読み取りについては、地形図や主題図などを実際に使用し、その地域でみられる事象や特色を的確に読み取る技能を身に付けさせることが必要となってくる。
	(イ)	2	79	1	1 3	11 7	
	(ウ)	4	82	1	3 2	10 4	
	(エ)	3	49	2	1 2	21 19	
	(オ)	2	81	2	3 1	10 4	
8	(ア)	4	73	2	2 1	21 3	世界と比べた日本の地域的特色について、日本の人口の変化を、資料をもとに正しい判断をすることについては、十分にできていた。 (イ)の日本の気象災害について正しく理解し適切に判断する問題は、その理解はやや不十分であった。やませが風水害をまねくと誤解している傾向が見られた。 (エ)の日本の電力構成について正しく理解し、資料を適切に読み取る問題はやや不十分であった。 気象災害の授業については、日本の特色ある地形と気候とを関連付けて理解させる必要がある。また日本の電力の授業については、東北地方太平洋沖地以降、原子力発電所は大幅に減少し大きく変化しているので、日本のエネルギー事情と関連させて理解させることが必要となってくる。
	(イ)	3	43	2	1 2	26 21	
	(ウ)	3	84	2	2 1	5 5	
	(エ)	1	41	2	2 3	24 17	
	(オ)	4	62	3	2 1	16 10	
	(カ)	1	68	3	4 2	10 10	
9	(ア)	促成(栽培)	60	19	抑制(よくせい) 保成		「自然環境から見た九州地方」「歴史的背景から見た北海道地方」について、全体的に一応できていた。 (イ)は九州地方の自然の特色について資料を読み取り正しく判断する問題であったが、「シラス」と「カルデラ」を誤解している傾向が見られた。 (オ)の北海道の雨温図について、資料を読み取り、正しく判断する問題は一応できていたが、日本海側の気候と誤解した生徒が11%いた。 「自然環境から見た九州地方」では自然環境が農業に及ぼす影響は大きいので、「世界と比べた日本の地域的特色」の「日本の農業」と関連付ける必要がある。「歴史的背景から見た北海道地方」は、北海道の雨温図と、北海道の農業が盛んなことを関連付けさせ、寒さを克服するための産業の変化の経緯や工夫を理解させる必要がある。
	(イ)	2	56	3	4 3	33 4	
	(ウ)	2	72	4	3 1	11 8	
	(エ)	4	71	4	3 1	11 9	
	(オ)	1	61	5	3 2	19 8	
	(カ)	1	67	5	3 2	17 7	
	(キ)	3	71	6	2 1	11 6	

IV 第3学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【社会 第3学年】

問題番号	趣旨		思・判・表	思・判・表	知・理	問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
	大問	小問							
1		(ア)	○		◎	日本国憲法と基本的人権	憲法改正の手続きについて、その仕組みを資料から適切に読み取る力を問う。	90	0
		(イ)	○		◎		日本国憲法の国民主権について、正しく理解しているかを問う。	86	3
		(ウ)	○		◎		自由権について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	84	0
		(エ)	○		◎		新しい人権について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	95	0
		(オ)	○		◎		国民の義務について、正しく理解しているかを問う。	95	0
		(カ)	○		◎		社会権について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	56	0
2		(ア)	○		◎	私たちの暮らしと民主政治	法律が成立するまでについて、その仕組みを資料から適切に読み取る力を問う。	74	0
		(イ)	○		◎		現在の衆議院議員選挙について、正しく理解しているかを問う。	84	1
		(ウ)	○		◎		内閣の仕事について、正しく理解しているかを問う。	66	0
		(エ)	○		◎		内閣不信任案について、可決された後の手続きを、正しく理解しているかを問う。	70	0
		(オ)	○	◎	○		衆議院議員の選挙制度の課題について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	74	0
3		(ア)	○		◎	司法権の独立と裁判	三権分立のしくみについて、資料を適切に読み取る力を問う。	63	0
		(イ)	○		◎		民事裁判について、資料を読み取り、その仕組みを正しく理解しているかを問う。	72	0
		(ウ)	○	◎	○		三審制の理由について、資料を読み取り、正しく表現しているかを問う。	49	9
		(エ)	○	○	◎		裁判員制度について、その仕組みを正しく理解しているかを問う。	75	0
		(オ)	○	◎	○		日本の法曹の人数について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	87	0
4		(ア)	○		◎	明治時代の日本	四民平等の内容について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	90	0
		(イ)	○		◎		岩倉使節団について、正しく理解しているかを問う。	80	0
		(ウ)	○	○	◎		三国干渉の内容について、正しく理解しているかを問う。	40	0
		(エ)	○	○	◎		ポーツマス条約の内容について、正しく理解しているかを問う。	74	0
		(オ)	○		◎		八幡製鉄所の場所を、正しく理解しているかを問う。	64	0
5		(ア)	○	○	◎	第一次世界大戦の背景と影響	第一次世界大戦のきっかけについて、正しく理解しているかを問う。	70	0
		(イ)	○		◎		日本が第一次世界大戦に参戦した理由について、正しく理解しているかを問う。	66	5
		(ウ)	○	◎	○		アジアの民族運動について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	49	0
		(エ)	○	◎	○		第一次世界大戦後の国際協調の動きについて、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	39	0
		(オ)	○		◎		大正時代の政党内閣について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	73	0
		(カ)	○	◎	○		文化の大衆化について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	24	0
6		(ア)	○	◎	○	第二次世界大戦までの国際関係	ブロック経済の内容について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	70	0
		(イ)	○	○	◎		日本の経済について、正しく理解しているかを問う。	49	0
		(ウ)	○		◎		二・二六事件について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	72	0
		(エ)	○		◎		太平洋戦争中の国際関係について、資料を読み取る力を問う。	68	0
		(オ)	○	◎	○		太平洋戦争中の国民生活について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	80	0
		(カ)	○		◎		沖繩戦の場所を、正しく理解しているかを問う。	85	0
7		(ア)	○		◎	第二次世界大戦後の日本	日本の民主化政策について、正しく理解しているかを問う。	41	0
		(イ)	○	◎	○		選挙権に関する資料を読み取り、正しく表現できる力を問う。	59	5
		(ウ)	○	◎	○		朝鮮戦争の影響について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	61	0
		(エ)	○	○	◎		日本の国際社会への復帰について、正しく理解しているかを問う。	59	0
		(オ)	○	○	◎		1970年代の世界のようすについて、正しく理解しているかを問う。	27	0
		(カ)	○	◎	○		地域紛争とテロ事件について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	32	0
8		(ア)	○		◎	日本の諸地域(中部地方)	新潟県の農業産出額について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	87	0
		(イ)	○		◎		中京工業地帯の工業出荷額について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	71	0
		(ウ)	○	◎	○		長野県の農業について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	90	0
		(エ)	○	◎	○		諏訪湖周辺の工業の変化について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	77	0
9		(ア)	○	○	◎	日本の諸地域(中国・四国地方)	促成栽培について、正しく理解しているかを問う。	78	0
		(イ)	○		◎		瀬戸内気候の雨温図について、資料を適切に読み取る力を問う。	45	0
		(ウ)	○		◎		中国・四国地方の他地域との結びつきについて、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	61	0
		(エ)	○	○	◎		島根県の観光客の変化について、資料を適切に読み取る力を問う。	81	0
10		(ア)	○	◎	○	地形図の利用	新旧の地形図を比較し、土地利用を資料から読み取り、正しく判断しているかを問う。	66	0
		(イ)	○		◎		縮尺について、資料を活用して正しく読み取る力を問う。	75	0
		(ウ)	○	◎	○		地形図を適切に読み取り、実際の場所について正しく判断しているかを問う。	88	0

◎…主たる観点

平均正答率 (%)		
知識・技能		70.0
思考・判断・表現		53.0

2. 主な誤答と分析【社会 第3学年】

(1) 公民的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	(ア)	1	90	0	2	5	「人間を尊重する日本国憲法」についての問題は、全体的に一応の理解はみられた。特に(ア)の憲法改正の手續きと(エ)の自己決定権の資料の読み取り、(オ)の国民の義務については十分できている。しかし、(カ)の社会権の労働者の権利を資料から読み取る問題では、32%が請求権と答えていた。ストライキと国家への請求の違いについて確認させたい。また、(ウ)の事例をみて生命・身体を自由を答えさせる問題では、6%が請願権と答えていた。自由権の種類と請願権の意味との違いを明確にし、人間らしく生きる権利について理解を深めさせたい。
	(イ)	主権	86	3	2	11	
	(ウ)	2	84	0	3	6	
	(エ)	4	95	0	1	3	
	(オ)	1	95	0	2	1	
	(カ)	3	56	0	2	32	
2	(ア)	2	74	0	1	13	日本の民主政治についての問題は、全体的に一応の理解はみられた。特に(イ)の衆議院議員選挙の理解は、十分にできている。(ア)では、内閣総理大臣が法律を公布するという間違えが見られた。(オ)の一票の格差の読み取りは、一票の価値の大小の区別が難しかった。(ウ)の内閣の仕事は、法律の制定と間違える生徒が多かったので、国会と内閣の仕事の違いを確認することが必要である。
	(イ)	3	84	1	1	8	
	(ウ)	1	66	0	4	14	
	(エ)	2	70	0	3	11	
	(オ)	2	74	0	4	19	
3	(ア)	1	63	0	4	28	司法権の独立と裁判についての問題は(ウ)の論述以外は全体的に一応の理解はみられた。(ウ)の論述は指定された語句は使用しているが、内容が間違っていたり意味が通らない論述が多く、自分の言葉で表現することが難しかったようである。(ア)の三権分立のしくみについては、国政調査権を選択している生徒が多く、国会と裁判所の関係を理解させる必要がある。(エ)の裁判員裁判を答えさせる問題では、14%が被害者参加制度と答えていた。裁判員制度は、将来参加する可能性があること、司法制度の改革にもつながることまで理解を深める必要がある。
	(イ)	2	72	0	4	13	
	(ウ)	より公正で慎重に裁判を行うことで、私たちの人権を守る(ため。)	49	9	慎重に裁判することで私たちの人権が守られる。	10	
	(エ)	4	75	0	2	14	
	(オ)	3	87	0	4	5	

(2) 歴史的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
4	(ア)	1	90	0	3	8	明治時代の日本についての問題は、(ア)については十分できている。しかし、(ウ)の日清戦争後の中国の様子についての知識をもとにして、資料を読み取る問題は37%が南京条約についての内容を答えており、三国干渉とその後の中国の様子についての理解がやや不十分である。明治時代の東アジアの様子について授業で理解させたい。
					4	1	
	(イ)	2	80	0	4	17	
					1	2	
	(ウ)	2	40	0	1	37	
					4	13	
	(エ)	3	74	0	2	11	
					1	10	
	(オ)	4	64	0	3	18	
					2	15	
5	(ア)	3	70	0	4	12	第一次世界大戦の背景と影響についての問題においては、(エ)の第一次世界大戦後の国際協調の動きについての流れを問う問題は解答率が39%とやや不十分であった。ベルサイユ条約の締結から国際連盟の設立、ワシントン会議までの流れについて確認させたい。 また、(カ)の文化の大衆化についての知識をもとに、正しい判断をする問題は正答率が24%と理解が不十分であった。大正時代にはどのような生活や文化が広まっていったのかを社会の変化と関連づけた授業で確認させたい。
					1	11	
	(イ)	日英	66	5			
	(ウ)	2	49	0	1	20	
					3	19	
	(エ)	3	39	0	4	33	
				2	20		
	(オ)	4	73	0	1	10	
					2	10	
	(カ)	2	24	0	1	33	
					3	31	
6	(ア)	1	70	0	2	15	第二次世界大戦までの国際関係と日本についての問題では、(カ)の沖繩戦の場所についての理解は十分できている。しかし、(イ)のこの当時の日本の経済について考え、その理解を問う問題においては正答率が49%とやや不十分であった。27%が大戦景気の内容を答えていた。日本経済の不景気が深刻になる一方で、財閥が政治家と強く結びつき、大きな力をふるうようになっていったこの当時の日本国内のようすについて理解する必要がある。
					3	10	
	(イ)	2	49	0	1	27	
					3	15	
	(ウ)	3	72	0	2	15	
					4	8	
	(エ)	3	68	0	2	25	
					4	5	
	(オ)	1	80	0	4	8	
					2	6	
	(カ)	4	85	0	3	10	
					1	3	
7	(ア)	1	41	0	3	32	第二次世界大戦後の国際関係と日本についての問題では(オ)の1970年代の世界の様子について考え、その理解が不十分である。ベトナム戦争の終結からベトナム社会主義共和国が成立したことについて理解を深めさせる必要がある。 また、(カ)の地域紛争とテロ事件についての知識をもとに、正しい判断をする問題の理解が不十分である。ここでも並び替えの問題に苦手意識を持っている生徒が多い。第4次中東戦争から湾岸戦争、アメリカ同時多発テロ事件、イラク戦争といった変動する国際社会について世界の動きを大きく理解させたい。
					2	18	
	(イ)	(1928年と比較し、1946年は)有権者の年齢が下がり、女性にも選挙権が与えられたから。	59	5	今までと違って女性も政治に参加できるようになった。		
	(ウ)	4	61	0	3	20	
					2	12	
	(エ)	4	59	0	1	29	
				2	6		
	(オ)	2	27	0	3	41	
					1	21	
	(カ)	1	32	0	4	31	
					2	21	

(3) 地理的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
8	(ア)	1	87	0	2	6	産業からみた中部地方についての問題は、全体的に十分な理解がみられた。しかし、(イ)の中京工業地帯の工業出荷額を選択する問題については、阪神工業地帯や瀬戸内工業地域を選んだ生徒が合わせて24%と多かった。出荷額が最も高いことと関連させて理解させる必要がある。(エ)の長野県の工業出荷額の変化を読み取る問題では3つの資料からの読み取りが難しかったようである。日頃から、複数の資料を活用した授業を実践していきたい。
	(イ)	3	71	0	3	4	
	(ウ)	2	90	0	2	16	
	(エ)	4	77	0	4	8	
9	(ア)	4	78	0	1	17	他地域と結びついた中国・四国地方についての問題は、(イ)の瀬戸内気候の雨温図の正答率が45%と低かった。(ウ)の本州・四国連絡橋の位置を選ぶ問題では正答率が61%とやや低く、岡山県と香川県に架かる橋と他地域との位置の選択が難しかった。今後の授業では、地図を用いて位置を確認をさせる活動を重視する必要がある。
	(イ)	1	45	0	2	3	
	(ウ)	2	61	0	3	22	
	(エ)	3	81	0	2	20	
10	(ア)	4	66	0	1	16	身近な地域の調査についての問題は、全体的に一応の理解がみられた。しかし、(ア)の地形図を読み取る問題では、同一地域の過去と最近の地形図の変化の読み取りが難しかった。授業で地形図に触れる機会を多くする必要がある。
	(イ)	3	75	0	2	15	
	(ウ)	1	88	0	4	11	
					2	8	

V 全体の考察と今後に向けて

1. 全体の考察

今年度も、基礎的・基本的な内容を問う問題を中心に出题した。「知識・技能」の観点では、重要な用語の確実な定着を確認するとともに、様々な資料から正確に情報を読み取ることを意識した。「思考・判断・表現」では、複数の資料を活用して正しい情報を取捨選択する力を問うことを心がけた。

結果を見ると、昨年度に比べ3年生の「思考・判断・表現」の正答率が低下したが、1、2年生の「思考・判断・表現」の正答率は上昇している。「知識・技能」については、全ての学年で正答率が上昇した。各学校で基礎基本を丁寧に指導している成果が反映されていることと考えられる。論述問題の正答率は、昨年度と比較して、高くなっている。特に、1年生の歴史では、20%以上正答率が高くなった。どの学年も昨年度と同様に「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」よりも低い傾向にあった。

また、全学年で無答率が減少傾向にある。特に、3年生での無答率が低くなった。しかし、昨年度と同じく各学年とも地理的分野での無答率が高かった。歴史的分野の記述の無答率も高い傾向にある。

2. 分野ごとの考察

(1) 歴史的分野

① 第1学年

「人類の出現と文明のおこり」では、資料を活用し、正しく理解しているかをみることをねらいとして出題した。エジプト文明の特色を選ぶ問題では、十分な理解がみられたが、人類の出現については、誤答率が正答率を上回るなど、理解が不十分であった。

「古代の日本」では、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことについて、資料を活用し、適切に判断し、正しく理解しているかをみることをねらいとして出題した。聖徳太子の政治や鑑真について十分な理解がみられた。しかし、古代の土地制度の流れについて、正しい判断をする問題がやや不十分であった。

「武家政権の成立とその後の武家社会の展開」については、資料を活用し、正しく理解しているかをみることをねらいとして出題した。全体的に理解がやや不十分な問題が多く、特に院政の記述は、摂関政治と混同しているものが多く、理解が不十分であった。

「原始から古代までの人々の生活」では、各時代の生活がどのように変化しているのか、また各時代の文化について、資料を活用し、正しく理解し、適切に判断できているかをみることをねらいとして出題した。弥生時代の生活についての判断や、鎌倉時代の特色についての理解が不十分であった。また、律令制下の農民の生活についての論述問題では、複数の資料を比較・検討し、自分の言葉で表現する力が不十分であった。

全体を通し、小学校の既習事項など、基礎的・基本的な事項についての正答率は高かったものの、資料を活用して解答を導き出す問題や、時代の流れや各時代の特色について他の時代と違いを明らかにするのが不十分であった。今後は、歴史の大きな流れを捉えさせるために、歴史的事象の因果関係をより明らかにしながら授業づくりを行い、また複数の資料を比較・考察する活動を通して、さらに理解を深めていくことが大切であると考えられる。

②第2学年

「中世の日本と社会の変化」については、ノート形式で、鎌倉時代後期から室町時代の政治的・文化的・経済的変化やできごとについて正しく理解しているかを問う問題を出題した。また、資料を選ぶ問題や、室町文化の資料を選ぶ問題の正答率がやや不十分であった。

「中世の世界のできごと」については、カード形式の資料をもとに、世界のできごとについて正しく理解し、また、中世の世界と日本の歴史の関連について正しく判断できるかを問う問題を出題した。十字軍に対する理解がやや不十分であった。また、ルネサンスについて正しく判断することが不十分であった。

「近世の政治と社会」については、年表をもとに、信長や秀吉の政治・外交、江戸幕府成立から幕府の改革までの流れを理解しているかを問う問題を出題した。織田信長についての理解は十分にできていたが、田沼意次の政治についての理解がやや不十分であったほか、化政文化に関する資料を読みとることもやや不十分であった。

「近代の日本と世界」については、会話文をもとに、欧米諸国で近代化が進み、その影響が日本に及んだこと理解し、また、開国から江戸幕府滅亡までの流れを理解しているかを問う問題を出題した。産業革命期の社会問題について資料を基にした正しい判断が不十分であった。また、幕末の歴史の流れを正しく理解し、判断することがやや不十分であった。

全体を通して、並び替えなどの問題に関して苦手意識を持っている生徒が多いようである。歴史の大きな流れをつかむことが大切であると考え。また、資料を活用する問題も不十分であった。日頃からさまざまな資料を提示し、資料に触れる機会を増やしていくことが重要であると考え。

③第3学年

「明治時代の日本」については、カード形式の資料をもとに、明治時代の日本の政治的・外交的変化やできごとについて、正しく理解しているかを問う問題を出題した。「日清戦後の中国の様子」について、理解がやや不十分であった。

「第一次世界大戦と日本」については、略年表をもとに、第一次世界大戦の背景とその影響や大正デモクラシーについての知識を使い、正しく判断しているかを問う問題を出題した。「第一次世界大戦後の国際協調の動きについての並びかえ」については、理解がやや不十分であった。また、「文化の大衆化」については、理解が不十分であった。

「第二次世界大戦までの国際関係と日本」については、ノートをもとに、第二次世界大戦までの国際関係や日本の出来事について考え、正しく理解しているかを問う問題を出題した。「沖縄戦の場所」についての理解は十分にできている。しかし、「日本の不景気」について、理解がやや不十分な点がみられた。

「第二次世界大戦後の国際関係と日本」については、会話文をもとに、戦後の日本の様子や国際社会の様子についての知識をもとに、正しく判断しているかを問う問題を出題した。「1970年代の世界の様子」については、その理解が不十分であった。また、「地域紛争とテロ事件についての並び替え」については判断が不十分であった。

全体を通して、並び替えなどの問題に関して苦手意識を持っている生徒が多いようである。歴史的事象の因果関係を明確にし、時代の流れを大きくつかむことが重要である。

(2) 地理的分野

①第1学年

「世界の地域構成」では、大陸と海洋の分布、緯度と経度、北半球と南半球では季節が違ふことなどについて、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う問題を出題した。

緯度と経度を世界地図から読み取る問題では、正答率が31%と不十分であった。普段の授業から地図に慣れ親しみ、地図を活用して緯度と経度を読み取る時間を設定することが必要である。

「世界各地の人々の生活と環境」では、世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考え、資料を適切に読み取っているかを問う問題を出題した。乾燥した地域の雨温図の読み取りは、十分にできている。標高が高い地域の特色については、アルパカが人々の生活に欠かせないことを資料から考え、内容の理解に努めることが大切である。また、スコールについては、言葉の意味だけでなく、気候や人々の生活などと関連付けて理解させることが重要である。

「世界の諸地域」では、アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州の地域的特色について考え、資料を適切に読み取っているかを問う問題を出題した。アジア州に関しては、全体的に一応の理解がみられた。ヨーロッパ州では、自然環境とEUの特色についてやや不十分であった。自然環境では国際河川のライン川が流域の都市を結ぶ交通路として、重要な役割を果たしていることを資料から考えさせたい。論述問題は、3つの資料を比較、関連させてはいるが、問題に沿った答え方が十分でなかったため、正答率がやや低かった。EUの利点を問う問題は正答率が35%であった。利点について、イラストや資料を交えながらその特徴を掴むことが大切である。アフリカ州では、全体的に一応の理解がみられた。資料を読み取ることはできているが、サハラ砂漠の位置やモノカルチャー経済の特徴について十分に理解していないところがあるので、地図帳やグラフなどを活用して内容の理解に努めることが必要である。

全体を通して、資料を読み取ることはできるが、身につけたものを関連付けて理解することが必要である。地形や気候、人々の生活や文化などを相互に関連付けて、地域的特色を大まかに捉えることが大切である。また、緯度や経度などについては、地図に慣れ親しむような授業展開や反復練習を行うことで定着する。普段の授業から資料と社会的事象や地域的特色を照らし合わせながら理解していくことが大切であると考えられる。

②第2学年

「世界の諸地域」では、「北アメリカ州」「南アメリカ州」「オセアニア州」を取り上げ、世界の諸地域の地形や気候などの基礎的な知識の定着の上に、資料を活用し、地理的事象を正しくとらえることができるかをねらいとして出題した。

「北アメリカ州」では、北アメリカ州の貿易の特色に関する問題は十分にできていた。また「南アメリカ州」では、南アメリカ州の環境問題についての理解が十分にできていた。しかし、南アメリカ州の鉱産資源、南アメリカ州の気候を問う問題については、正答率は不十分であった。特に気候を問う問題は、南アメリカ州の温帯気候と高山気候を誤解している傾向があり、昨年度と比較すると、正答率は低かった。

「オセアニア州」では、オセアニア州の気候と人口の関係や、オーストラリアの貿易相手国の変化について、資料を正しく読み取る問題は一応できていた。しかしオーストラリアの位置と農業の関係については、資料をもとにした正しい判断がやや不十分であった。地図からオーストラリアは南半球にあることとは理解できているが、南半球は日本と季節が逆であることの読み取りは難しかったようである。また無答も多かった。

「日本の姿と地形」については、全体的に一応できていた。特に都道府県や地方の位置については、資料をもとにした正しい判断が十分にできていた。しかし地形図を読み取る問題では、等高線と縮尺の読み取りについて、資料をもとにした正しい判断がやや不十分であった。

「世界と比べた日本の地域的特色」について、日本の人口の変化を、資料をもとにして正しく判断する問題については、十分にできていた。日本の気象災害について正しく理解し適切に判断することがやや不十分であった。やませが風水害をまねくと誤解している傾向が見られた。日本の電力構成について正しく理解し、資料を適切に読み取ることができると問う問題はやや不十分であった。

「日本の諸地域」では、自然環境を中核に九州地方を、歴史的背景を中核に北海道地方を取り上げ、自然環境と歴史的背景の視点で様々な資料をもとに考察し、正しく判断し、理解しているかを見ることをねらいとして出題した。

「自然環境を中核とした九州地方」では、九州地方の自然の特色を、資料を読み取り判断する問題だったが、「シラス」と「カルデラ」を誤解している傾向が見られた。「歴史的背景を中核とした北海道地方」では、北海道の雨温図について資料を読み取り、正しく判断する問題は一応できていたが、日本海側の気候と誤解した生徒が11%いた。

全体を通して、基礎的な知識は定着しており、基本的な統計資料を読み取る力についても定着していると思われる。しかし、雨温図の読み取りや、国や都道府県の位置、地形などを理解して解答する問題のように、様々な知識を結びつけて答える問題力はやや不十分といえる。地理的分野の授業では、自然環境をベースに置き、地域の生活が成り立っていることを理解させながら、様々な事象を関連付けさせ、授業を展開することが必要となってくる。そして複数の資料を読み取りながら、判断する力を育てる機会を増やしていくことが大切であると考えられる。

③第3学年

産業を中核について「中部地方」を取り上げ、地域ごとの産業の特色を正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。全体的には一応の理解はできていた。

問8の(イ)は2つの資料を合わせて判断する問題であったが、出荷額の少ない選択肢を選ぶ割合が高かった。(エ)の3つの資料を合わせて判断する問題は一応の理解はできていた。

他地域の結びつきを中核として「中国・四国地方」を取り上げ、地域ごとの特色を正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。問9の(イ)の瀬戸内気候の特色の理解はやや不十分で、山陰・南四国との違いを資料や生活の違いから理解する必要がある。

(ウ)の本州四国連絡橋の位置は一応理解できていたが、知識としてだけでなく、地図を用いて理解する必要がある。「身近な地域の調査」については、同一地区の過去と最近の地形図の変化を読み取る技能や考察する力をみることをねらいとして出題した。2つの地形図の比較で地図記号の読み取りや土地利用の変化を読み取る問題は一応理解できていた。今後は何度も地形図を用いて資料を読み取る力を育てていくことが大切である。

(3) 公民的分野

「人間を尊重する日本国憲法」について、憲法改正の手続きや憲法の三つの原理、基本的な人権や国民の義務について、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。(ア)の憲法改正の手続きと(エ)の自己決定権の資料の読み取り、(オ)の国民の義務については十分にできていた。しかし、(カ)の社会権の労働者の権利を資料から読み取る問題では、やや不十分であった。(ウ)の事例をみて生命・身体を自由を答えさせる問題では、6%が請願権と答えていた。

「日本の民主政治」については、法律の制定、衆議院議員選挙のしくみと課題、国会の

種類と意味、内閣の仕事について正しく理解しているかをみることをねらいとした。(イ)の衆議院議員選挙の理解は、十分にできていた。(ア)では、内閣総理大臣が法律を公布するという間違えが見られた。(オ)の一票の格差の読み取りは、一票の価値でどちらが大きいのかの区別が難しかった。(ウ)の内閣の仕事は、法律の制定と間違える生徒が多かった。国会と内閣の仕事の違いを確認することが必要である。

「司法権の独立と裁判」について、(ウ)の論述以外は全体的に一応の理解はみられた。(ウ)の論述では、指定された語句を使用しているが、内容が違っていたり、意味が通らない論述が多くあったりと、自分の言葉で表現することが難しかった。(ア)の三権分立のしくみについて、一応理解はできたが、国政調査権を選択している生徒が多く、国会と裁判所の関係を理解させる必要がある。(エ)の裁判員裁判を答えさせる問題では、14%が被害者参加制度と答えていた。

全体を通して、基本的な知識は身に付けているが、資料の読み取りから判断して社会権を答える問題は正答率が約50%で、具体的な内容から判断することが今後の課題である。また既習知識を使って自分の考え方を表現することを、どの単元でも繰り返し、表現する機会をさらに増やすことで、思考力や表現力を高めていく必要があると考える。

3. 指導にあたって

(1) 知識・技能を問う問題について

歴史的分野については、「鎌倉時代の文化」「分国法」など、複数の資料から知識を問う問題の理解が不十分であった。昨年度と同様に世界史に関わる問題の正答率が全体として低い傾向がある。また3年生は、近現代史の知識を問う問題の理解が不十分であった。普段の授業で、複数の資料から情報を読み取り事象を関連付ける授業を展開する必要がある。近現代史については、日本だけでなく、常に世界の歴史とのつながりを意識した授業を展開したい。

地理的分野については、経年変化を見るために1年生で毎年出題されている緯度・経度の読み取りの問題の正答率は、27年度は36%、28年度は43%、29年度は52%、30年度は31%と昨年度と比較して20%以上も減少していた。特に西経と東経を間違えて認識している誤答が多かった。緯度・経度の仕組みを覚えさせるだけでなく、地図帳や地球儀を使って繰り返し内容の理解に努める必要がある。3年生で出題されている地形図は、全体的に一応の理解が見られた。普段の授業で、地形図を積極的に活用している授業の成果が出ている。さらに継続して指導していきたい。

公民的分野については、全体的に一応の理解が見られた。「社会権」を問う問題では、「請求権」との識別が不十分な生徒が目立った。基本的人権については、様々な事例を通して、確実に内容を理解できるように指導していきたい。

(2) 思考・判断・表現を問う問題について

歴史的分野については、1年生の「古代・中世の文化」、3年生の「第二次世界大戦までの国際関係」についての理解が不十分であった。特に、世界の近現代の理解が不十分であった。歴史の大きな流れをとらえる授業によって、「思考・判断・表現」の正答率は改善することができているが、まだ理解はやや不十分である。近現代についても世界の歴史とのつながりを意識させ、授業を展開していきたい。

地理的分野については、2年生の南半球の雨温図を読み取るものについて経年変化を見るために毎年出題している。正答率は、27年度は49%、28年度は39%、29年度は43%、30年度は21%と昨年度と比較して、20%以上の低下が見られた。北半球と南半球で季節が逆にな

ることの理解が不十分であるので、ICTを活用し、写真などの視覚的な資料を通して、生徒の理解が深まる学習活動を展開していきたい。

公民的分野については、全体的に一応の理解が見られた。「三審制」の理由を問う問題では、言葉の意味を知っていても、自分の言葉で説明できていない傾向が見られた。普段の授業から、言語活動をより丁寧に組み込んでいきたい。

4. 授業改善に向けて

現行学習指導要領の課題として、「課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業が十分に行われていないこと」「近現代に関する学習の定着状況が低い傾向にあること」があげられている。今回のテストの結果からも、どの学年においても全ての分野で知識・技能よりも思考・判断・表現の観点の正答率が低い傾向にあった。また、近現代の分野での正答率が低い傾向にある。このことから、新学習指導要領で求められている、課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業を展開することが重要である。

地理的分野に関しては、経年変化を見るために時差と北半球と南半球の季節の違いを問う問題を出題しているが、今年度は正答率が大きく減少していた。地球儀や地図などを使い、繰り返し授業で取り組み確実に定着できるようにしていきたい。

近現代史に関しては、日本だけでなく、世界の歴史とのつながりを意識させた授業を展開していくことが大切である。常に世界の中の日本という視点を持ち授業を構想することが求められる。その時に単元をつらぬく課題を意識して、大きな流れの中で毎時間の授業に取り組んでいきたい。

公民的分野に関しては、主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成を目指した授業に取り組んでいきたい。政治を自分のこととして考えられるように、時事的な内容も取り扱い、主権者意識を高められる実践が求められる。

新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が社会科の授業でも求められている。主体的な学びについては、児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元等を通した学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容や学習活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童生徒の表現を促すようにすることなどが重要である。

